

平成25年度

福岡県学力実態調査

社会

理科

英語

調査結果報告書

平成25年12月
福岡県教育委員会

平成25年度福岡県学力実態調査

(社会、理科、英語) 調査結果報告書

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の対象学年	1
3 調査の教科	1
4 調査の内容	1
5 調査日	1
6 6月25日に調査を実施した学校・児童生徒数	2
7 調査問題の内容	2
II 調査結果の概要	3
1 調査結果概況	3
2 全体の状況	3
3 「知識」に関する問題の状況	3
4 「活用」に関する問題の状況	3
5 これまでの状況	4
6 地区別（教育事務所別）の状況	5
◆資料の見方◆	6
III 各教科調査結果	7
1 小学校社会	7
2 小学校理科	10
3 中学校社会	13
4 中学校理科	16
5 中学校英語	19

平成25年度 福岡県学力実態調査 (社会、理科、英語) 調査結果報告書

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、教育事務所ごとの6つの地区における児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が、県の状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力の状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年（政令市を除く）

公立の小学校第6学年

公立の中学校第3学年、中等教育学校第3学年

※ 特別支援学校については全ての学校に問題等を配布する。

※ 当該学年及び当該教科の目標及び内容に準じて指導を受けている場合は、原則として調査の対象とする。

3 調査の教科

- 小学校第6学年 社会、理科（1教科45分で実施）
- 中学校及び中等教育学校第3学年 社会、理科、英語（1教科50分で実施）

4 調査の内容

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
<ul style="list-style-type: none">・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容など

5 調査日

平成25年6月25日（火）

6 6月25日に調査を実施した学校・児童生徒数

小学校	学校数		調査を受けた児童数	
	対象学校数	実施校数	社会	理科
	472	472	24,603	24,616

中学校	学校数		調査を受けた生徒数		
	対象学校数	実施校数	社会	理科	英語
	212	212	23,401	23,416	23,421

※学校数は、分校を含む

7 調査問題の内容

- 調査範囲等
 - ・ 原則として、当該学年の前学年までの指導事項とする。
 - ・ 各教科の問題は、原則として、主として「知識」に関する問題を約7割、主として「活用」に関する問題を約3割で構成する。詳しい問題数は下表のとおりである。

	小学校		中学校		
	社会	理科	社会	理科	英語
主として「知識」に関する問題	29	21	23	25	16
主として「活用」に関する問題	5	8	13	8	18
問題数合計	34	29	36	33	34

※英語については、分類が難しい7問について、活用として数えている

- 設問（解答）形式
 - 「選択式」、「記述式」及び「論述式」の3形式とする。
 - * 選択式：選択肢から選ぶ（基本は4択）問題。
選択肢は想定される誤答傾向に基づいて設定する。
 - * 記述式：語句などを答える問題。グラフや図を描く問題も含む。
 - * 論述式：文で答える問題。考え方の筋道を図や式で答える問題も含む。
 - なお、形式ごとの問題数は下表のとおりである。

	小学校		中学校		
	社会	理科	社会	理科	英語
選択式	20	17	20	12	15
記述式	6	6	9	11	5
論述式	8	6	11	10	14

II 調査結果の概要

1 調査結果概況

〈小学校〉

	社会			理科		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用
期待正答率	58.1	60.5	44.0	61.4	66.2	48.8
平均正答率	48.7	51.2	34.4	56.2	60.7	44.3

〈中学校〉

	社会			理科			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
期待正答率	50.8	56.5	40.8	46.1	48.2	39.4	60.0	66.3	54.4
平均正答率	39.8	48.4	24.6	35.3	37.0	29.8	53.9	61.4	47.2

期待正答率：学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることが期待される児童生徒の割合を想定したもの。

平均正答率：平均正答数を設問数で割った値の百分率のこと。

2 全体の状況

- 小学校では、社会・理科ともに期待正答率を下回った。
- 中学校では、社会、理科、英語いずれも期待正答率を下回った。特に、中学校の社会・理科においては、期待正答率を10ポイント以上下回った。
- どの教科も「活用」に関する問題の平均正答率は「知識」に関する問題の平均正答率より低く、知識・技能を活用する力に課題がみられる。

3 「知識」に関する問題の状況

- 小学校では、社会・理科ともに期待正答率を下回った。
- 中学校では、社会・理科・英語いずれも期待正答率を下回った。特に、理科では期待正答率を10ポイント以上下回った。

4 「活用」に関する問題の状況

- 小学校では、社会・理科ともに期待正答率を下回った。
- 中学校では、社会・理科・英語いずれも期待正答率を下回っており、知識や技能を活用する力に課題がみられる。特に、社会においては、期待正答率を10ポイント以上下回った。

※ 本調査では、全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学）と異なり、1時間の調査で「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を約7：3の割合で実施している。

このことから、2～4のように分析しているものの、正答率の状況を単純に比較することは必ずしも適当ではない。

5 これまでの状況

<小学校>

- 社会全体では、平均正答率が 45%から 59%の間で、理科全体では、平均正答率が 55%から 63%の間で推移している。

<中学校>

- 社会、及び、理科全体では、平均正答率が初めて 40%台を割り込んだ。英語も 53.9%とこれまで6年間で最も低い正答率となった。
- 理科の活用は、平成 23 年度と期待正答率との差が同じであり、英語の活用は、平成 24 年度より期待正答率との差が縮まった。

【平成 20～25 年度の平均正答率の推移】（平成 24 年度は、全国学力・学習状況調査で理科を実施）

小学校	社会			理科		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	51.7	61.0	30.8	58.0	62.7	45.5
平成21年度	45.3	51.5	33.0	55.5	58.3	50.2
平成22年度	50.6	53.0	40.0	62.3	65.8	56.9
平成23年度	47.2	46.9	48.0	61.3	68.4	51.3
平成24年度	58.6	63.9	44.5			
平成25年度	48.7	51.2	34.4	56.2	60.7	44.3

中学校	社会			理科			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	47.6	51.9	36.5	55.1	57.7	47.9	63.6	73.0	41.4
平成21年度	41.4	47.1	26.9	52.1	54.5	46.3	59.4	63.5	51.2
平成22年度	41.2	44.0	33.4	47.8	48.2	46.5	61.4	68.5	49.0
平成23年度	46.7	49.5	39.0	51.7	54.7	44.3	62.6	68.9	41.8
平成24年度	47.0	52.3	32.6				58.6	67.6	37.7
平成25年度	39.8	48.4	24.6	35.3	37.0	29.8	53.9	61.4	47.2

【平成 20～25 年度の期待正答率と平均正答率との差の推移】

小学校	社会			理科		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	-9.1	-2.9	-23.0	-3.2	-1.8	-7.0
平成21年度	-8.0	-3.1	-17.8	-1.6	0.1	-4.8
平成22年度	-3.8	-4.3	-2.0	-2.4	-3.1	-1.4
平成23年度	-6.3	-8.1	-2.0	-1.5	0.8	-4.5
平成24年度	-1.6	0.2	-6.2			
平成25年度	-9.4	-9.3	-9.6	-5.2	-5.5	-4.5
H24からの推移	▼	▼	▼	▼	▼	□

中学校	社会			理科			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
平成20年度	-11.9	-10.1	-16.8	-5.4	-4.8	-7.1	-0.6	3.7	-10.8
平成21年度	-12.5	-8.3	-23.1	-6.0	-5.0	-8.1	-0.4	-0.2	-1.8
平成22年度	-9.6	-9.0	-11.6	-6.4	-6.6	-6.0	0.7	4.6	-6.0
平成23年度	-3.3	-1.6	-7.9	0.3	1.1	-1.7	1.8	5.2	-9.6
平成24年度	-4.0	-2.7	-7.4				-1.9	1.4	-9.5
平成25年度	-11.0	-8.1	-16.2	-10.8	-11.2	-9.6	-6.1	-4.9	-7.2
H24からの推移	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	○

6 地区別（教育事務所別）の状況

県内を教育事務所ごとの6つの地区に分けて分析した。

■ 平均正答率の状況

- 各教科とも地区間で差がみられ、全体では小学校理科で約8ポイント、中学校理科で約10ポイント、中学校英語で約12ポイントの差がみられる。
- 小学校理科では、「活用」に関する問題のほうが、「知識」に関する問題よりも最大最小の差が大きい。
- 中学校では、社会・理科に比べ、英語が地区間の差が大きい。
- 昨年度までに比べ、中学校では9区分中7区分で地区間の差が縮まっており、地区間の差が縮まる傾向が見られる。

【各教育事務所別の平均正答率】

	小学校						中学校								
	社会			理科			社会			理科			英語		
	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用	全体	知識	活用
県全体	48.7	51.2	34.4	56.2	60.7	44.3	39.8	48.4	24.6	35.3	37.0	29.8	53.9	61.4	47.2
福岡	49.6	51.9	36.6	56.7	61.1	45.1	42.3	50.8	27.3	38.2	40.0	32.4	57.9	64.9	51.7
北九州	46.7	49.5	30.4	54.4	59.4	41.5	38.7	47.7	22.9	33.4	34.8	28.8	49.9	57.3	43.3
北筑後	48.6	51.1	34.1	55.6	60.1	43.8	38.6	47.0	23.9	34.8	36.5	29.6	53.2	60.6	46.6
南筑後	51.7	54.4	36.4	60.4	65.0	48.4	39.2	48.2	23.3	34.0	35.7	28.7	53.1	60.8	46.3
筑豊	44.4	47.0	29.0	52.3	57.2	39.5	33.8	42.6	18.3	28.4	29.9	24.1	45.6	53.5	38.6
京築	46.5	49.1	31.4	54.2	58.5	43.2	38.8	47.4	23.6	33.8	36.0	26.9	50.4	58.6	42.7
最大最小の差	▼ 7.3	▼ 7.4	△ 7.6	△ 8.1	△ 7.8	▼ 8.9	△ 8.5	△ 8.2	△ 9	△ 9.8	△ 10.1	△ 8.3	▼ 12.3	△ 11.4	▼ 13.1
(H24)	7.0	6.4	8.7				10.1	9.8	11.1				11.8	12.3	10.8
			(H23)	8.3	8.8	7.5			(H23)	12.7	13.3	11.0			

△:差が縮小 ▼:差が拡大

※理科については、平成24年度は全国学力学習状況調査で実施のため、平成23年度の数値と比較。

■ 平成20年度からの標準偏差の状況

平成20～25年度の地区間の教科全体の平均正答率のばらつきについて「標準偏差」をもとに分析した。

- 中学校では、社会・英語で平成24年度に比べて、理科は平成23年度に比べて、ばらつきが小さくなっている。
- 小学校では、社会は平成24年度に比べて、理科は平成23年度に比べてばらつきが大きくなっている。

【平成20～25年度の6教育事務所間の標準偏差の推移】

	小学校		中学校		
	社会	理科	社会	理科	英語
平成20年度	2.6	3.2	2.8	3.4	3.4
平成21年度	2.3	3.0	2.6	3.4	3.6
平成22年度	3.0	2.7	2.3	3.1	3.6
平成23年度	2.7	2.5	3.2	3.8	3.8
平成24年度	0.8		4.7		6.1
平成25年度	2.6	2.8	2.7	3.2	4.1

※平成24年度は、全国学力・学習状況調査で理科が実施されたため、未実施

◆資料の見方◆

各教科調査結果における「問題内容と解答類型」の見方は次のとおりである。

◇選択肢式の問題と記述・論述式の問題の区分を表す。

◇「活用」に関する問題は☆印、空欄は「知識」に関する問題を示す。

◇問題の内容は、出題している問題に関連する一般的な単元名等を表す。
 ◇領域は、出題している問題に関連する学習指導要領の内容を示す。
 ◇出題のねらいは、出題している問題で調査しようとしているねらいを表す。

大問番号	中問番	小問番	解答形式			観点			活用問題	問題の内容	領域	出題のねらい
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ				
1	(2)	(1)	☆			○		◎		身近な地域や特色のある地形、土地利用の様子、主な公共施設などについて	①学校のまわり	主な地図記号を理解している。
		A	☆				◎	○	新旧の地図の違いを読み取ることができる。			
		B	☆			◎	○	地図から移動状況を読み取る。				
	(3)		☆				◎	○				

◇各教科の「観点別学習状況の評価の観点」を示す。

- 〔社会〕
 イ：社会的な思考・判断・表現
 ウ：資料活用の技能
 エ：社会的事象についての知識・理解
 〔英語〕
 イ：外国語表現の能力
 ウ：外国語理解の能力
 エ：言語や文化についての知識・理解

類型番号						正答率	期待正答率
1	2	3	4	その他	無解答		
2.7	14.4	2.5	80.0	0.4	0.1	80.0	65.0
31.3	4.8	11.6	19.5	25.9	6.9	31.3	50.0
45.2	1.8	0.4	13.3	31.0	8.2	45.2	50.0
33.1	41.9	9.0	7.7	4.1	4.2	41.9	60.0

◇選択式の問題では、選択肢1～4を示し、記述式と論述式の問題では解答類型を示す。解答類型は1～5までである場合がある。
 ◇「その他」は解答類型以外の解答を示す。「無解答」は、解答していないことを示す。
 ◇各類型の数字は、該当する児童生徒数の割合を%で示す。
 ◇白抜き数字が〔正答〕を示す。記述式・論述式の問題では「1」（複数の場合もある。）が〔正答〕を示す。
 ◇正答率と期待正答率を網掛けで示した問題は記述式または論述式の問題であることを示す。

語句	説明
選択式	四つの選択肢から正しいものやあてはまるものを一つ答える問題
記述式	語句などを答える問題 グラフや図を描く問題も含む
論述式	文で答える問題 考え方の筋道を図や式で答える問題も含む
正答	選択肢式の問題、記述・論述式の問題における正しい答
誤答	選択肢式の問題、記述・論述式の問題における誤った答
無解答	選択肢式の問題、記述・論述式の問題における解答のなかったもの
正答率	設問に対して正答した児童生徒の割合
期待正答率	学習指導要領に示された内容について、標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることが期待される児童生徒の割合を想定したもの 問題の内容別・領域別・観点別・教科別の期待正答率は、各問題の期待正答を単純平均した数値
観点	指導要録の「指導に関する記録」における「観点別学習状況」の評価の観点
問題の内容	出題している問題に関連する一般的な単元名等
領域	出題している問題に関連する学習指導要領の内容

III 各教科調査結果

1 小学校社会

- 教科全体では、期待正答率 58.1%に対して平均正答率 48.7%であり、9.5ポイント下回っている。(昨年度は-1.6ポイント)
- 「知識」、「活用」に関する問題いずれも9ポイント以上下回っている。
- 評価の観点別では、「技能」が期待正答率を17ポイント下回った。
- 解答形式別では、「記述式」が17ポイント以上下回っている。
- 領域別では、「日本の食料生産」が約1ポイント期待正答率を上回っている。「日本の工業と貿易」は、39ポイント下回っている。
- 正答率分布は、60%をピークにし、それを超える正答率の分布が少なくなっている。

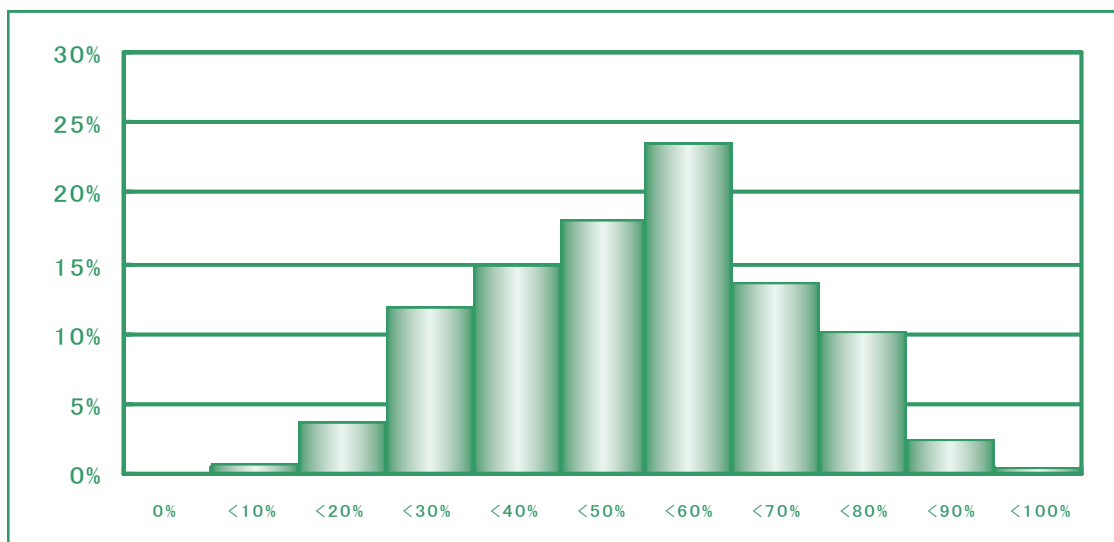
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	思考・判断・表現	技能	知識・理解	選択肢	記述	論述
期待正答率	58.1	60.5	44.0	58.0	52.8	58.6	62.0	55.8	50.0
平均正答率	48.7	51.2	34.4	52.4	35.4	50.2	55.2	38.5	39.9
差	-9.4	-9.3	-9.6	-5.6	-17.4	-8.4	-6.8	-17.3	-10.1

■ 領域別の正答率

	領域別正答率							
	学校のまわり	水とくらし	ごみとくらし	日本の国土	日本の食料生産	自動車工業	日本の工業と貿易	情報産業とくらし
期待正答率	56.3	60.0	63.3	59.0	61.4	40.0	53.0	62.0
平均正答率	50.3	56.0	58.7	46.0	62.8	32.0	14.0	61.4
差	-6.0	-4.0	-4.6	-13.0	1.4	-8.0	-39.0	-0.6

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合（%）



■ 小学校社会 問題内容と解答類型（類型番号欄の白黒反転は正答）

大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号									正答率	期待 正答率		
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	5	6	7	8	9			その他	無解答
1	(2)	(1)	☆			○	◎		身近な地域や特色のある地形、土地利用の様子、主な公共施設などについて	①学校のまわり	主な地図記号を理解している。	2.9	14.7	3.0	79.1						0.3	0.1	79.1	65.0	
		A	☆			◎	○					新旧の地図の違いを読み取ることができる。	31.3	4.2	11.8	19.7						26.9	6.1	31.3	50.0
		B	☆			◎	○						地図から移動状況を読み取る。	46.9	1.6	0.4	13.6						29.8	7.6	46.9
(3)	☆				◎	○		②水とくらし	日本の川の特徴を理解している。	10.8	3.0	14.3	21.5						41.1	9.3	49.7	60.0			
2	(2)	(1)		☆		○	◎		地域の人々の生活にとってひつような飲料水について	②水とくらし	森林が果たす緑のガムのはたらきを理解している。	1.9	55.1	2.2							30.2	10.5	59.3	60.0	
		(2)		☆		○	◎					節水について理解している。	59.0	16.1	15.1							9.3	0.5	59.0	60.0
		(3)	☆			○	◎					③ごみとくらし	燃やせるごみの処分の仕方と灰の活用方法を理解している。	4.2	12.5	58.8	23.9						0.0	0.5	58.8
3	(2)	(1)	☆			○	◎		地域の人々の生活にとってひつような廃棄物について※	③ごみとくらし	再利用できる資源(リサイクル)ごみの種類と方法について理解している。	5.3	21.0	12.9	60.2						0.1	0.5	60.2	65.0	
		(2)	☆			○	◎					資料を正しく読み取り比較することで、学習問題をつくり、その答えを導き出すことができる。	41.0	16.1	6.3	9.3						24.0	3.4	57.1	60.0
		(3)		☆		◎	○	○				☆													
4	(2)	(1)	X	☆		○	◎		我が国の国土の自然などの様子について 世界の主な大陸と海洋、主要国の名称と位置について※	④日本の国土	日本の近隣の大陸名と海洋名を理解している。	66.8	4.7	0.4	0.8						16.5	10.9	66.8	65.0	
		Y	☆			○	◎					日本の各県の正しい位置関係を理解している。	59.1	8.4	6.2	8.9						8.5	8.9	59.1	65.0
		(2)	☆			○	◎					沖縄の人々の気候に合わせた生活の工夫を理解している。	37.4	45.0								13.9	3.6	37.4	60.0
		(3)		☆		○	◎					国土の気候の変化を日本地図や時刻表とつなげて考えることができる。	10.9	9.4	10.1	30.5						25.1	14.0	10.9	40.0
5	(2)	(1)	ア	☆		○	◎		我が国の国土の自然などの様子について 我が国の農業や水産業について※	⑤日本の食料生産	米づくりの作業の流れを理解している。	2.3	64.5	2.1	8.5	21.7					0.3	0.6	64.5	65.0	
		イ	☆			○	◎					日本の米の生産量と一人当たりの米の消費量が共に減少していることをとらえている。	1.6	20.7	4.1	70.9	1.7					0.2	0.7	70.9	65.0
		ウ	☆			○	◎					日本の農家の米づくりの工夫を理解している。	93.0	1.8	0.8	1.9	1.6					0.2	0.6	93.0	65.0
		①	☆			○	◎					資料から水産業従事者の実態を読み取ることができる。	33.6	61.0								3.3	2.1	61.0	65.0
		②	☆			○	◎					資料から水産業従事者の実態を読み取ることができる。	44.7									53.8	1.6	44.7	60.0
		(3)	①	☆			◎	○					資料から日本の水産業の魚・貝類の自給率とつなげて考えることができる。	65.9									32.5	1.7	65.9
6	(2)	(1)		☆		○	◎	○	☆	⑥自動車工業	複数の資料を組み合わせて考えることで、日本の自動車生産の特色を考えることができる。	0.6	22.8	14.1						40.6	21.9	37.5	40.0		
		(2)		☆		○	◎	○	☆			エコカー生産と環境問題を結びつけて考えることができる。	5.2	4.6	16.6	0.2					44.6	28.7	26.4	40.0	
7	(2)	(1)	ア	☆			◎	○	我が国の工業生産について 人々の努力や工夫、貿易や運輸などの働きについて	⑦日本の工業と貿易	我が国の各種の工業生産や工業地域の生産の特色や分布をとらえることができる。	13.1	8.3	15.7	6.8	5.9	13.4	11.7	1.8	2.0	9.9	15.7	50.0		
		イ	☆			◎	○					日本の中小工場の特徴を理解している。	5.5	14.8	8.7	10.0	9.5	10.1	13.4	9.0	6.6	1.5	11.1	9.5	50.0
		(2)	☆			○	◎					日本の輸入の特徴を理解している。	16.5	6.8	18.6	19.0						30.2	8.9	16.5	60.0
		①	☆			○	◎					日本の工業生産と貿易との関係について理解している。	14.1	1.8								53.2	31.0	15.8	65.0
8	(2)	(1)	①	☆			○	◎	我が国の情報産業や情報化した社会の様子について	⑧情報産業とくらし	情報がどのようにつくられ届けられているのか理解できる。	5.8	5.8	12.0	6.1	48.3	1.1				5.4	15.5	48.3	60.0	
		②	☆			○	◎					個人情報の取扱いが国民生活に大きな影響を及ぼしていることを理解している。	59.3	8.8	3.9	4.7	3.0	0.9				3.9	15.5	59.3	60.0
		③	☆			○	◎						3.4	11.9	7.1	43.9	7.3	6.2				3.6	16.7	43.9	60.0
		A	☆			○	◎						77.1	1.1	1.1	1.0	3.4	0.3				0.2	15.8	77.1	65.0
		B	☆			○	◎						0.5	0.7	0.8	78.4	2.0	1.3				0.2	16.1	78.4	65.0

■ 小学校社会 指導改善のポイント

◇視点1 47都道府県の名称と地理的位置の学習の充実

都道府県の名称と位置について問う問題の正答率が低い状況である。

この問題では、各都道府県の名称と地理的位置の確実な理解が求められる。

そこで指導に当たっては、第3学年及び第4学年の指導で終わるのではなく、各学年の学習場面において都道府県の名称が登場した時に地図帳で位置を確認したり、学習したことを白地図を使って整理したりする等、学習内容や特色と関連付けて都道府県の名称や地理的位置の確実な定着を図るなど、意図的・計画的な指導が大切である。また、教室に日本の都道府県の地図を掲示したり、白地図を子どもたちが日常的に活用できるように工夫したりする必要がある。

◇視点2 地域の人々の健康や良好な生活の環境維持について理解を深める学習の充実

飲料水の確保について問う問題の正答率が低い状況である。たとえば、日本の河川の特色や家庭での節水のあり方について正しく理解されていない状況がある。

これらの問題では、川の水量調節や水力発電に利用するダム働き、森林が担っている保水のしくみなどについて確実な理解が求められる。

そこで指導に当たっては、飲料水の確保の現状をもとに「どれくらいの水を使っているのだろう」、「水はどこからくるのだろう」などの課題をつくらせ、問題意識を持たせた上で施設の見学やそこで働く人への聞き取り調査を行うことが大切である。その上で、飲料水をつくる資源には限りがあることを捉えさせ、自分たちの無駄な使い方を見直し、有効に利用することが大切であることに気付くようにする必要がある。

◇視点3 わが国の工業生産について理解を深める学習の充実

工業地帯・工業地域の位置や特色、中小工場と大工場の特色、日本の輸出品目の変化の要因などを問う問題の正答率が低い状況である。たとえば、日本の輸出品目の第1位が原油であることが正しく理解されていない状況がある。

これらの問題では、我が国の主な工業生産の種類、工業地帯や工業地域の分布、工業生産に従事している人々の工夫や努力について確実な理解が求められる。

そこで指導に当たっては、暮らしの中で使われている工業製品を種類別に分類・整理する活動を通して工業製品と国民生活とのかかわりを具体的に調べ、工業の種類別や規模別の生産額、工場数、工業地帯や工業地域の立地などを捉えさせる必要がある。その際、工業生産を支える貿易や運輸と関連付け、原油を輸入しやすい臨海部に化学工業が発達するなど、特色が見られる要因をつかませながら学習を展開する必要がある。

◇視点4 複数の資料を関連付けて読み取り、分かったことや考えたことなどを説明する学習の充実

複数の資料を関連付けて考え、まとめ、表現する問題の正答率が低い状況である。

たとえば、水産業で働く人数と日本の魚・貝類の自給率との資料を関連付けて読み取り、これからの水産業の課題を示す問題や、日本の輸入額に占める機械類の割合が増加している資料と日本の企業が海外進出している資料とを関連付けて読み取り、機械類が増加している要因の一つを明らかにする問題などである。

これらの問題では、一つ一つの資料に示されている事実を明らかにし、それぞれの事実を原因と結果の関係や目的と手段の関係等で関連付ける力が求められる。

そこで指導に当たっては、一つ一つの資料に示された情報を丁寧に読み取らせるとともに、それらの共通点を見出させたり、一見、関連性のない資料を既習の知識や概念を使って因果関係を見出させたりするなど、複数の資料を活用させる学習を意図的に仕組む必要がある。

ここでは、問題解決的な学習を基本としながら、2つ以上の資料を使って結論を出させる活動を仕組んだり、いったん調査活動を終えてまとめた後に、教師が児童のまとめた資料同士を結び付けて課題を提示したりするなど、考えを深めさせる学習活動の工夫が必要になる。また、これらの問題に対しては、無解答の児童も多く見られるため、日頃の学習から資料を関連付けて考え、その考えを書かせる授業を展開するとともに、自作のテスト等を作成して、資料を関連付けて考察する問題に精通させる等、思考力・判断力・表現力を育成する手だてを工夫して継続的に指導していくことが大切である。

2 小学校理科

- 教科全体では、期待正答率 61.4%に対して平均正答率 56.2%であり、5.2ポイント下回っている。
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 5.5ポイント、「活用」に関する問題では、4.5ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、3つの観点とも 3.3～6.8ポイント期待正答率を下回っている。
- 解答形式別では3つの形式全てで期待正答率を下回ったが、特に論述式では、約 11ポイント下回っている。
- 領域別では、「生物」が約 1ポイント期待正答率を上回っているが、他の領域は、約 7～10ポイント程度、下回っている。
- 正答率分布は、60%から70%がピークになっている。

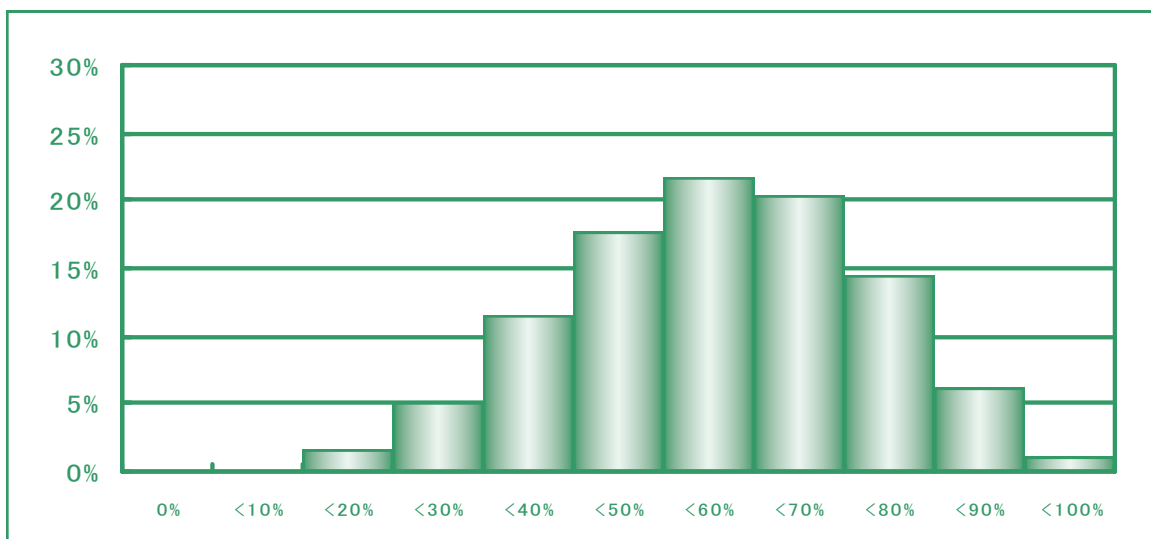
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	思考・判断・表現	技能	知識・理解	選択肢	記述	論述
期待正答率	61.4	66.2	48.8	60.5	59.2	62.7	65.9	63.3	46.7
平均正答率	56.2	60.7	44.3	53.7	55.9	58.4	63.2	57.1	35.3
差	-5.2	-5.5	-4.5	-6.8	-3.3	-4.3	-2.7	-6.2	-11.4


■ 領域別の正答率

	領域別正答率			
	物質	エネルギー	生物	地球
期待正答率	45.0	58.8	68.2	63.3
平均正答率	37.5	49.1	69.0	54.6
差	-7.5	-9.7	0.8	-8.7

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：児童の割合（%）



■ 小学校理科 問題内容と解答類型 (類型番号欄の白黒反転は正答)

大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号										正答率	期待 正答率		
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他			無解答	
1		(1)		☆		○	◎		昆虫の成長と体のつくり	③生物	昆虫の脚は6本(2本3対で、胸部についていることを理解している。	55.4	26.0	5.6	9.1							0.7	3.2	55.4	70.0	
		(2)	☆			○	◎			③生物	チョウは、たまご→幼虫→さなぎ→成虫と成長することを理解している。	93.6	4.8	1.0	0.0							0.6	0.0	93.6	80.0	
		(3)	☆			○	◎			③生物	さなぎにならない(不完全変態)昆虫のなかまに何ががあるかを理解している。	59.4	0.0	0.0	9.9	28.4							2.0	0.2	59.4	60.0
2		(1)	☆				◎	○	月の位置や形と太陽の位置	④地球	月の位置(方位と高さ)の変化を観察するとき、同じ場所で観察し、目印になるものも記録することを理解している。	91.3	0.0	0.0	4.1	3.5						0.9	0.1	91.3	80.0	
		(2)	☆			○	◎			④地球	月は時間とともに東から西へ動くことを理解している。	2.8	10.5	13.7	72.2							0.6	0.2	72.2	80.0	
		(3)	☆			○	◎			④地球	半月(上弦)が見えてから約1週間後に満月が見えることを理解している。	27.4	45.3	19.2	7.3							0.4	0.3	27.4	60.0	
3	(1)	図		☆		○	◎	☆	乾電池の数とつなぎ方、光電池の働き※	②エネルギー	なぎにすればよいこと、乾電池の直列つなぎのしかたを理解している。	32.3	11.8									46.5	9.4	32.3	50.0	
		理由		☆		○	◎			②エネルギー	乾電池を直列つなぎにすると、流れる電流が大きくなり、モーターつき自動車が速く走れることを説明できる。	18.2	0.3	2.9	1.7	0.4						65.9	10.6	18.2	40.0	
	(2)	☆			○	◎		②エネルギー		乾電池の向きを変えてモーターつき自動車につなぐと、自動車が逆向きに走れることを考えている。	9.3	2.9	7.0	80.6							0.0	0.2	80.6	70.0		
	(3)	☆			○	◎		②エネルギー		電気用図記号  は電池を表していることを理解している。	13.2	10.3	62.7	13.2								0.1	0.4	62.7	70.0	
	(4)	☆			◎	○	☆	②エネルギー		宇宙ステーションに光電池が使われるのは、乾電池とちがって長い間使えるからであることを考えている。	57.4	18.9	8.1	15.2								0.1	0.4	57.4	50.0	
4		(1)	☆			○	◎		卵の中の成長、水中の小さな生物	③生物	メダカの雌雄の外見的特徴を理解している。	81.4	18.2										0.2	0.2	81.4	70.0
		(2)		☆		○	◎			③生物	受精について、科学的な言葉や概念を理解している。	71.5	1.1	15.8								8.1	3.5	71.5	60.0	
		(3)	☆			○	◎			③生物	受精卵の発生過程を理解している。	93.6	4.8	1.2								0.3	0.1	93.6	80.0	
		(4) ①	☆			◎	○			③生物	顕微鏡を正しく操作することができる。	10.6	9.1	63.3	16.7								0.1	0.3	63.3	70.0
		(4) ②	☆			○	◎			③生物	顕微鏡で観察した図はミジンコであることを理解している。	77.2	4.4	5.3									7.7	5.5	77.2	70.0
5		(1)	☆			○	◎		植物の発芽、植物の受粉、結実※	③生物	発芽して最初に出る2枚の葉を子葉ということを理解している。	61.9	6.9	2.2									23.5	5.5	61.9	80.0
		(2)	☆			○	◎			③生物	アサガオの花のつくりを理解している。	42.9	28.6	26.7								1.5	0.3	42.9	60.0	
		(3)		☆	◎	○	○	☆		③生物	アサガオの花を使った、結実の条件を調べる実験で、人工的に受粉させるとき以外は花に袋をかけておく意味を考え、それを表現することができる。	58.3	0.6	1.3								35.7	4.0	59.0	50.0	
6		(1)	☆			○	◎		流れる水の働き※	④地球	川を流れる水がけずつ土砂を運ぶはたらきを運搬ということを理解している。	2.1	72.8	2.8	0.1								13.4	8.7	72.8	70.0
		(2)	☆			◎	○	☆		④地球	川の上流・中流・下流それぞれで、侵食・運搬・堆積のどののはたらきがかかっているかを考えている。	24.2	39.1	13.2	22.7							0.3	0.5	39.1	50.0	
		(3)		☆	◎	○	☆			④地球	護岸ブロックが曲がって流れる川の外側に置かれているのは、外側の方が川の流れが速く、侵食のはたらきが大きいため、洪水が起きやすいからであることを考え、それを表現することができる。	0.7	23.8	35.4	10.0							23.7	6.5	24.5	40.0	
7		(1)	☆			○	◎		物が水に溶ける量の限度、物が水に溶ける量の変化※	①物質	水溶液について、科学的な言葉や概念を理解している。	44.3	0.5	2.2	5.3								30.3	17.3	44.8	50.0
		(2)	☆			○	◎			①物質	溶解の概念(溶媒の中に溶質が一緒に散らばる)を理解している。	47.2	5.8	9.1	37.1							0.1	0.7	37.1	50.0	
		(3)		☆	○	◎	☆			①物質	グラフから、食塩と砂糖の溶解度曲線の違いを読み取り、それを表現することができる。	7.0	15.5	49.8								23.1	4.6	22.5	30.0	
		(4)	☆			◎	○	☆		①物質	水の温度を変えずに、とけ残った砂糖を溶かすには、水を加えればよいことを理解し、グラフから、砂糖の溶解度を読み取り、それを用いて計算することができる。	14.5	22.5	14.0	45.7							0.2	3.1	45.7	50.0	
8		(1)	☆			◎	○		振り子の運動※	②エネルギー	実験誤差が生じる可能性があるので、複数回実験して平均をとって結果を処理することを理解している。	12.6	3.2	53.8	29.2								0.3	0.9	53.8	70.0
		(2)		☆		○	◎			②エネルギー	振り子が1往復する平均の時間を求めることができる。	14.2	0.3	11.7	12.6							54.0	7.1	14.2	50.0	
		(3)	☆			◎	○	☆		②エネルギー	いろいろな条件制御をして行った複数の実験結果から、振り子が1往復する時間を決める条件を考察することができる。	8.5	12.1	4.7	73.5							0.1	1.1	73.5	70.0	

■ 小学校理科 指導改善のポイント

◇視点1 身近な自然を対象とした自然体験の充実を図る学習指導

「**1** (1) 昆虫の体のつくりに関する問題」、**5** (2) 植物の体のつくりに関する問題」の正答率が低い。この問題では、動植物の体のつくりを正しく理解しているかが問われている。

これらに対応するには、生活科の学習との関連を考慮した自然体験活動を通して、実感を伴った理解を図る学習活動が重要である。そこで、授業では、校庭や近くの公園などで生息している生物の様子を調べたり、身近な昆虫や植物を育てたりしながら、児童が自然に親しむ学習指導が必要である。

◇視点2 問題解決的な学習過程を大切に学習指導

「**2** (3) 1週間後に見える月の形に関する問題」、**8** (2) 振り子が1往復する平均の時間を求める問題」の正答率が低い。これらの問題では、見通しをもって観察・実験などを行い、問題解決を行うことができるかが問われている。

これらに対応するには、目的意識をもって問題解決を行う学習活動が重要である。そこで、授業では、「月はどのように動くのだろうか」や「振り子が1往復する時間は何によって変わるのだろうか」という問題を児童が共有し、月の動きについての予想を立てたり、平均の求め方について学習したりしながら、問題解決の活動を展開していく学習指導が必要である。

◇視点3 観察・実験の結果を整理し考察し表現する学習指導

「**7** (3) グラフから食塩と砂糖の溶解度曲線の違いを読み取る問題」の正答率が低い。この問題では、食塩の溶ける量と砂糖の溶ける量が温度によって変わることをグラフから読み取り、文章で表現することが問われている。

これに対応するには、「水の温度と溶ける量」、「水の量と溶ける量」など、物が水に溶ける規則性について条件を制御して調べ、その結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と関係付けながら考察を言語化する学習活動が重要である。そこで、授業では、水の温度と溶けるものの量を示したグラフ（溶解度の変化など）を提示し、一定温度で溶ける量や固体になって出てくる量などを考察するなどの学習指導が必要である。

◇視点4 実社会・実生活との関連を重視した学習指導

「**6** (3) 流れる水のはたらきと自然災害とを関連付けて考える問題」の正答率が低い。この問題では、流れる水のはたらきを踏まえて、洪水を防ぐ工夫など実社会・実生活と関係付けて考えることができるかが問われている。

これに対応するには、流水の働きと土地の変化を調べるモデル実験や現地学習などの学習活動が重要である。そこで、授業では、流水のはたらきを調べるための人工の流れをつくり、流れる水の速さや量を変え地面の変化の様子を調べる実験や、河川の洪水を防ぐ工夫などを調べる現地学習などの学習指導が必要である。

3 中学校社会

- 教科全体では、期待正答率 50.8%に対して平均正答率 39.8%であり、11ポイント下回っている。(昨年度は-4ポイント)
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 8.1ポイント下回り、「活用」に関する問題では、16.2ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、3つの観点とも期待正答率を下回っており、特に「思考・判断・表現」では、14.9%下回った。
- 解答形式別では、いずれの形式も期待正答率を下回っており、特に論述式では、約 18ポイント下回っている。
- 領域別では、「世界各地の人々の生活と環境」、「世界と比べた日本の地域的特色」が 0.5～6.2ポイント、期待正答率を上回っているが、他の領域は、6～18ポイント程度、下回っている。
- 正答率分布は、20%～40%に30%以上の生徒が分布している。

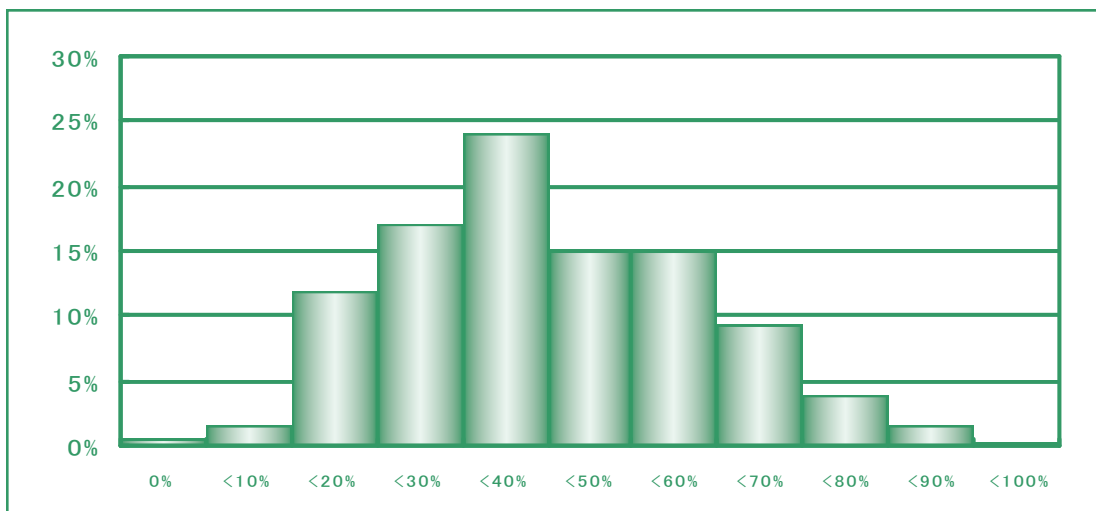
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	思考・判断・表現	技能	知識・理解	選択肢	記述	論述
期待正答率	50.8	56.5	40.8	49.1	45.3	51.1	55.5	50.6	40.0
平均正答率	39.8	48.4	24.6	34.2	33.3	40.4	48.1	34.5	22.2
差	-11.0	-8.1	-16.2	-14.9	-12.0	-10.7	-7.4	-16.1	-17.8

■ 領域別の正答率

	領域別正答率									
	世界の地域構成	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域	日本の地域構成	世界と比べた日本の地域的特色	日本の諸地域	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界
期待正答率	55.0	50.0	50.0	45.0	60.0	48.9	56.7	49.2	51.7	51.3
平均正答率	37.2	56.2	39.1	29.4	60.5	38.6	40.5	37.4	42.6	45.0
差	-17.8	6.2	-10.9	-15.6	0.5	-10.3	-16.2	-11.8	-9.1	-6.3

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（%）



■ 中学校社会 問題内容と解答類型 (類型番号欄の白黒反転は正答)

大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号								正答率	期待 正答率			
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	5	6	7	8			その他	無解答	
1		(1)	★	★		○	◎			世界の様々な地域 日本の様々な地域 について※	①世界の地域構 成	世界の大陸の特徴と位置や名称を理解してい る。	33.1	3.7	15.7						46.0	1.5	33.1	55.0	
		(2)	★				◎	○				④日本の地域構 成	地図の特徴に応じた読図を行うことができる。	10.5	42.1	14.0	26.4					6.3	0.7	42.1	55.0
		(3)		★		○	◎		★			②世界各地の 人々の生活と環 境	時差の計算を行うことができる。	19.1	0.8	1.0	0.5					58.5	20.2	19.1	40.0
		(4)	★				◎	○	★			③世界の諸地 域	複数の分布図を適切に読み取ることができる。	56.2	17.1	14.1	9.4					1.8	1.5	56.2	50.0
2		(1)	★			○	◎		世界の様々な地域 北アメリカについて ※	③世界の諸地 域	北アメリカ州の農業区分の特色を理解してい る。	23.5	29.8	30.3	14.8					0.2	1.5	29.8	55.0		
		(2)			★	◎	◎	○			★	アメリカの大規模農業のやり方を資料を読み取り 考察することができる。	9.8	18.6	1.4						57.5	12.7	28.4	40.0	
		(3)	★			○	◎					アメリカの4つの地域の工業生産額とその変化を 理解している。	6.6	21.2	28.3	42.2					0.2	1.5	42.2	55.0	
3		(1)	★			○	◎		日本の様々な地域 自然環境・人口につ いて※	④日本の地域構 成	日本の気候区分について理解している。	6.7	16.6	40.5	26.4					8.4	1.4	40.5	55.0		
		(2)			★	○	◎	○			★	⑥日本の諸地 域	ため池の景観写真と雨温図を関連付け、ため池 が必要になる理由を説明できる。	29.7	0.1	17.0					20.7	32.4	29.8	40.0	
		(3)	記号 論述		★	○	◎	○			★	長野県が気候を生かしてレタス栽培を行ってい ることを、複数の資料を結び付けて説明するこ とができる。	1.8	8.3	25.6						33.0	31.3	10.1	40.0	
4		(1)	★			○	◎		日本の様々な地域 資源・エネルギーにつ いて※	④日本の地域構 成	⑤世界と比べた 日本の地域的特 徴	日本の食料の主な輸入国を理解している。	19.6	60.5	7.3	10.7					0.2	1.7	60.5	60.0	
		(2)	★	★		○	◎	○			★	日本における産業の空洞化を示す適切な資料を 選び、選んだ資料を関連付けて空洞化による 課題を説明することができる。	28.3	0.2	7.1	32.9					19.0	12.5	28.5	40.0	
5		(1)	★			○	◎		日本の様々な地域 日本の地域的特色 地域間の結び付き について※	⑥日本の諸地 域	日本の地域ごとの農業生産の特徴を理解してい る。	10.0	13.9	51.8	22.2					0.1	2.0	51.8	55.0		
		①	★			○	◎				やませのため、東北地方が冷害になりやすいこ とを理解している。	82.8	5.7	3.6	1.5					1.3	5.1	82.8	60.0		
		②	★			○	◎				高速道路の発達とともに東北地方にIC工業団地 がふえていることを、ICの特徴を示す資料をも とに考察し、説明することができる。	47.2	0.0	2.8	0.0					39.7	10.3	47.2	55.0		
		③	★			○	◎				1.8	7.3	44.4	0.0						17.5	29.0	9.1	40.0		
6		(1)	★			○	◎		古代までの日本につ いて	⑦古代までの日 本	日本の土器などの特徴を理解している。	40.5	16.5	3.0						38.9	1.1	40.5	55.0		
		(2)	★			○	◎				邪馬台国が「魏志倭人伝」に示されていたことを 理解している。	62.9	30.9	2.8	1.6					0.5	1.3	62.9	60.0		
		(3)	★			○	◎				古代における政治や文化の特色を理解してい る。	39.5	18.4	22.1	18.0					0.1	1.8	18.0	55.0		
7		(1)		★	★	○	◎	○	★	中世の日本につ いて※	⑧中世の日本	承久の乱の後の幕府勢力の拡大の様子を、資 料から読み取り説明することができる。	16.3	1.5							39.0	43.2	16.3	40.0	
		①	★				○		元寇により、御家人たちが鎌倉幕府に不満を 持ったことを理解している。			3.6	2.9							56.3	37.1	6.6	40.0		
		(2)	①	★				○				75.2	14.6							8.4	1.7	75.2	60.0		
		②	★				○		64.7			30.1							3.2	2.0	64.7	60.0			
(3)			★	○	◎	○	★	後継対策で勘合が用いられたことを、資料を読み 取り説明することができる。	1.7	16.4	8.9	17.2					21.5	34.3	18.0	40.0					
(4)	★			○	◎			各時代における一揆などの様子を理解してい る。	13.8	29.1	43.6	10.2					0.2	3.2	43.6	55.0					
8		(1)	★			○	◎		近世の日本につ いて※	⑨近世の日本	鎖国時代にオランダと貿易していたことを理解し ている。	16.8	8.4	3.4	69.3					0.3	1.8	69.3	60.0		
		(2)		★		○	◎				徳川家康・家光の大名統制について理解してい る。	32.2	0.4	1.7						29.0	36.8	32.2	55.0		
		(3)			★	○	◎	○			★	参勤交代が各藩の経済力を弱める目的だった ことを、資料を読み取り説明することができる。	19.7	12.0							27.2	41.1	31.7	40.0	
		(4)	★			○	◎				中世、近世、近代の代表的な文化的作品につ いて理解している。	10.1	59.6	15.1	12.3					0.2	2.8	59.6	60.0		
		(5)		★		○	◎				18世紀終わりごろの日本を取り巻く諸外国の動 きを理解している。	26.4								42.3	31.3	26.4	55.0		
9		(1)	★			○	◎		近代の日本につ いて※	⑩近代の日本と 世界	開国が貿易に及ぼした影響について理解してい る。	37.9	9.0	28.4	20.9					0.5	3.1	37.9	55.0		
		(2)	★			○	◎				明治維新のおもな政策について理解している。	12.2	49.8	25.7	9.0					0.1	3.2	49.8	55.0		
		(3)			★	○	◎	○			★	大日本帝国憲法が天皇を中心とする国づくりを めざしたことを説明できる。	32.4	4.1							20.1	43.5	36.4	40.0	
		(4)	★			○	◎				⑪近代の日本と 世界	日清戦争・日露戦争の影響について理解してい る。	55.8	15.6	9.6	13.5					0.2	5.3	55.8	55.0	

■ 中学校社会 指導改善のポイント

結果の状況を踏まえると、特に次の4つの視点を重視した学習指導が必要である。

◇視点1 世界や日本の地域構成を大観する学習の充実

環太平洋造山帯が位置する大陸や例年課題としてあがっている時差を求める問題の正答率が低い状況である。

本年度の時差に関する問題は、イスタンブールと日本との時差を求め、日本から西に進んだ場合は時間を戻す操作が必要になる。ここでは、飛行時間の加算などの条件を手順よく整理して考えていくことが大切である。

そこで指導に当たっては、「経度 $15^{\circ} = 1$ 時間」という知識を、地球儀を使ってなぜ、そのようになるのか確実に理解させるとともに、テレビのニュース番組やスポーツ中継等を活用して実感を伴って学ばせることも大切である。また、世界の諸地域の各州の地域的特色を理解する学習でも適宜取り上げるなど、一過性の学習にならないように配慮する必要がある。

◇視点2 古代の特色を理解する学習の充実

古代における弥生時代の特色や奈良時代における社会のようすに関する問題の正答率が低い状況である。

これらの問題では、弥生時代から平安時代のころまでの大きな流れをつかみ、各時代の特色を政治や経済、文化などの面から多面的に捉える力が求められる。

そこで指導に当たっては、毎時間の学習で、時代の特色につながるまとめを確実に行わせるとともに、その際には、表や図を用いて時代の特色を多面的に整理させるように工夫する必要がある。

また、古代の学習は小学校での学習内容を踏まえ、その学習成果を生かしながら単なる繰り返しの学習にならないように留意する必要がある。そのために、小学校での内容をしっかりと把握しておくことが大切である。

◇視点3 社会的事象の意味、意義を解釈する学習の充実

承久の乱の後、地頭が西国に広く設置されたことの意味や倭寇対策として勘合が用いられたことを説明する問題の正答率が低い状況である。

これらの問題では、地頭の広がりやどのような意味を持っているのか、勘合を用いることにどのような背景があったのか、社会的事象の意味を確実にとらえ、自分なりの言葉で説明できる力が求められる。

そこで指導に当たっては、「なぜ、承久の乱の後に地頭が西国に広がったのか」や「なぜ、勘合を用いた貿易が必要になったのか」といった問いを追究させる学習を基本とする必要がある。その上で、一人一人の生徒が「なぜ」に対する解答を自分の言葉で的確に表現できるか評価し、説明できない生徒にはきめ細かな指導を行っていく必要がある。

◇視点4 様々な資料を多面的・多角的に考察する学習の充実

資料から必要な情報を読み取り、説明する問題の正答率が低い状況である。

例えば、長野県が冷涼な気候を利用してレタスづくりの工夫を行っていることを、雨温図や他産地と比較した出荷数の資料とを結び付けて説明する問題や、東北地方のIC工業団地の分布の要因を、東北地方の主な高速道路、空港、新幹線を示した地図、ICチップの写真とを関連付け、必要な情報を取捨選択して考察する問題などである。

これらの問題では、目的に応じて資料を的確に読み取る力と、それぞれの資料から読み取れることを既習の知識や概念と関連付け、それを的確に表現する力が求められる。

そこで指導に当たっては、資料を的確に読み取る力を育てること、読み取ったことを既習知識や概念をもとに関連付ける力を身に付けることを段階をおって指導していく必要がある。

ここでは、あくまでも問題解決的な学習の過程の中で考察させることが大切であり、生徒が「なぜ」や「どのように」などの問いを解明するために資料を考察させる必要がある。特に、関連付ける活動は、個人で十分に行わせた後、相互交流などを通して新たな視点を獲得させたり、思考の枠組みを広げさせたりするなどの工夫も求められる。

4 中学校理科

- 教科全体では、期待正答率 46.1%に対して平均正答率 35.3%であり、10.8ポイント下回っている。
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 11.2ポイント下回り、「活用」に関する問題では、9.6ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、3つの観点とも 10ポイント以上、期待正答率を下回っている。
- 解答形式別では、いずれの形式も期待正答率を下回っており、特に論述式では、約 14ポイント下回っている。
- 領域別では、全ての領域で期待正答率を下回っているが、特に「科学的領域」では、期待正答率を 20%以上下回った。
- 正答率分布は、30%～40%をピークに、下位にやや偏った分布を示している。

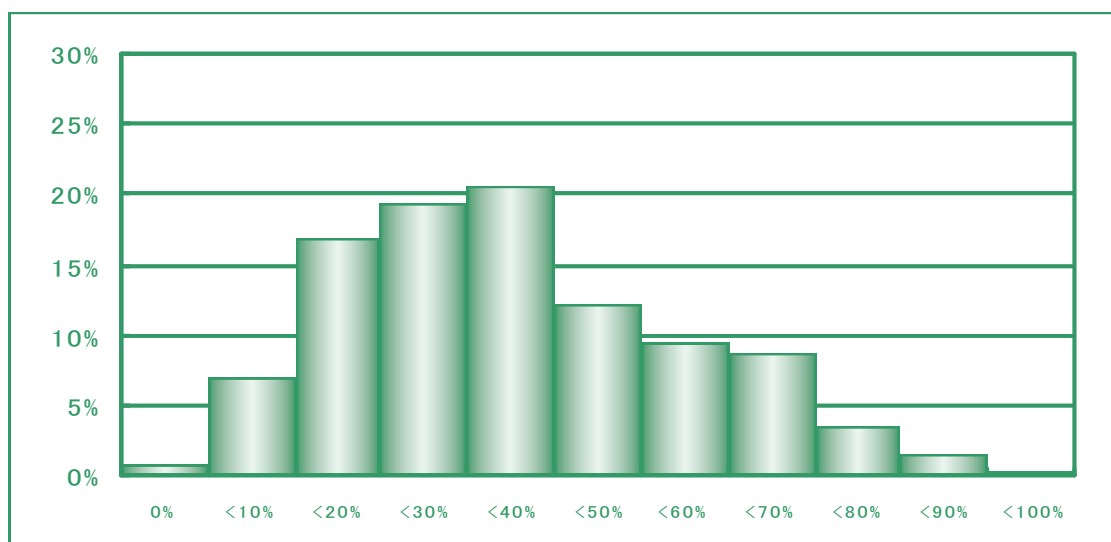
名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	思考・判断・表現	技能	知識・理解	選択肢	記述	論述
期待正答率	46.1	48.2	39.4	46.0	45.4	46.5	50.0	49.5	37.5
平均正答率	35.3	37.0	29.8	35.5	34.1	35.6	43.0	37.3	23.6
差	-10.8	-11.2	-9.6	-10.5	-11.3	-10.9	-7.0	-12.2	-13.9

■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

■ 領域別の正答率

	領域別正答率			
	物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域
期待正答率	45.0	40.0	48.8	47.5
平均正答率	31.6	19.9	41.5	40.4
差	-13.4	-20.1	-7.3	-7.1

■ 正答率分布 横軸：正答率（10%刻み） 縦軸：生徒の割合（%）



■ 中学校理科 問題内容と解答類型（類型番号欄の白黒反転は正答）

大問番号	中間番号	小問番号	解答形式			観点			活用問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号										正答率	期待正答率		
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	5	6	7	8	その他	無解答				
1	(1)	①	★			○	◎		植物の葉分と水の通り道※	③生物学的領域	ホウセンカは双子葉類であることから、茎の維管束は輪状に並び、道管は中心寄りを通っていると考えることができる。	55.6	38.4	3.8	1.6							0.1	0.6	55.6	60.0	
		②		★			○	◎			水の通り道を道管ということを理解している	62.2	10.1	0.7	0.5	3.6							8.9	14.0	62.2	70.0
		(2)			★	◎		○			★	植物の体に吸い上げられた水は、水蒸気になって体外に出ていき（蒸散）、植物にかぶせた袋の内側に水滴がつくことを考え、それを表現している。	15.0	1.1	26.7								44.7	12.5	42.8	40.0
2	(1)	①		★		◎		○	★	力と圧力※	①物理学的領域	0.40Nごとにばねが2.0cmずつ増えていることから、ばねの自然長を求めることができる。	30.4	29.9	2.3	1.6							31.7	4.0	60.4	60.0
		②			★		○	◎	ばねの長さの変化のデータから、ばねの伸びを読み取り、比例のグラフをかくことができる。			14.5	0.0	3.9	51.3							24.2	6.1	14.5	40.0	
	(2)	①			★		○	◎	ばねばかりの示した値から浮力の大きさを求め、物体にはたらく浮力を表す力の矢印を正しくかき込むことができる。			37.8	0.1	16.7	8.5	3.9	21.3					0.7	11.0	37.8	50.0	
		②		★			○	◎	水中の物体にはたらく浮力の大きさは、深さには関係しないことを考えることができる。			26.2	7.9	9.8	2.7	1.3	42.9					0.1	9.0	34.1	45.0	
3	(1)	①	★			○	◎		火山と地震	④地学的領域	日本付近では、海洋プレートが大陸プレートに沈みこむように動いていることを理解している。	10.0	60.2	8.6	19.1							0.5	1.6	60.2	65.0	
		②		★			○	◎			火山がプレートの境界に沿って分布しているのは、マグマがプレートの境界付近で発生するためであることを理解している。	46.5	3.9	0.7							33.1	15.8	46.5	50.0		
	(2)		★			○	◎	地震の規模の大きさを表す尺度はマグニチュードであることを理解している。			62.6	0.7	0.2	8.8	0.1	4.6				3.3	19.6	63.4	50.0			
4	(1)			★		◎		○	酸素と還元※	②化学的領域	加熱をやめたらピンコックでゴム管を閉じるのは、空気中の酸素が試験管に入るのを防ぐためであることを説明できる。	1.8	2.4	4.7	0.3	0.0						79.6	11.2	8.9	30.0	
	(2)		★				○	◎			酸化銅と炭素を反応させると二酸化炭素が発生するので、石灰水を白くにごらせること、酸化銅(黒色)が還元されて銅が残るので、底にたまった物質は赤色であることを考えている。	3.9	4.5	44.6	44.3						0.3	2.4	44.3	50.0		
	(3)			★		◎		○			★	酸化銅の炭素による還元の実験で、酸化された物質、同時に還元された物質が何であるかを理解している。	12.2	21.4	0.2	30.4	5.0	4.4	12.5			0.9	13.0	12.2	40.0	
	(4)			★			○	◎			酸化銅の炭素による還元を、化学反応式に表すことができる。	12.5	1.6	3.5	1.0	0.3	0.6	28.6			10.6	41.3	14.1	40.0		
5	(1)				★		◎		消化・吸収※	③生物学的領域	だ液や胃液による消化の実験で約40℃に保つのは、含まれている消化酵素がよくはたらくようにするためであることを理解している。	2.2	38.5	3.3								32.8	23.2	44.0	50.0	
	(2)			★			○	◎			比較のために、調べようとすることから以外の条件を同じにして行う実験を対照実験ということを理解している。	39.2	0.0	5.2	0.1						16.6	38.9	39.3	50.0		
	(3)				★	◎		○			実験の結果から、デンプンにだ液を加えた試験管では、デンプンがなく、デンプンが分解された物質があることを読み取り、だ液にはデンプンを分解するはたらきがあることを考えることができる。	16.0	8.4	0.0	14.2	16.9	0.0	3.6			16.4	24.5	24.4	40.0		
	(4)			★			○	◎			だ液にはアミラーゼ、胃液にはペプシンという消化酵素が含まれていることを理解している。	43.0	30.7	16.9	6.6						0.3	2.4	43.0	50.0		
	(5)				★	◎		○			★	実験の結果から、アミラーゼはデンプン、ペプシンはタンパク質だけにたらくこと(基質特異性)を考えることができる。	20.5									34.6	44.9	20.5	30.0	
6	(1)		★			○	◎		気象観測 前線の通過と天気の変化※	④地学的領域	乾湿計の示度を読み、乾湿表を見て、湿度を求めることができる。	6.2	16.8	73.4	1.4							0.6	1.6	73.4	65.0	
	(2)		★			◎		○			★	気温・湿度から、飽和水蒸量の表を使って空気中の水蒸気量を計算し、露点を求めることができる。	27.1	28.0	28.8	12.7						0.1	3.3	27.1	35.0	
	(3)	①		★			◎				○	天気図の等圧線を見て、ある地点の気圧を読み取ることができる。	14.7	20.3	36.0	26.9						0.1	2.0	26.9	45.0	
②			★				○	◎	連続した天気図から、ある地点を寒冷前線が通過することを読み取り、天気の変化を考えることができる。	8.2	38.9	35.9	14.7						0.1	2.1	38.9	50.0				
7	(1)		★				○	◎	日本の天気の特長	④地学的領域	日本の冬は西高東低の気圧配置であることを理解している。	14.6	17.3	13.7	52.0						0.1	2.4	52.0	55.0		
	(2)			★	◎			○			冬には、北西の季節風がふき、この風が日本海を渡るときに大量の水蒸気を吸収するので、日本海側に雪を降らせるというしくみを考えることができる。	2.7	2.6	9.0	0.0	0.6	30.9	1.0	0.7	38.1	14.4	5.3	30.0			
	(3)				★	◎		○			勢力がほぼつり合っているオホーツク海気団と小笠原気団がぶつかって停滞前線(梅雨前線)ができ、長雨がもたらされることを理解し、それを表現できる。	10.4	4.8	18.8	15.0					4.7	46.4	10.4	30.0			
8	(1)			★			○	◎	静電気と電流※	①物理学的領域	電気を通さない物質を絶縁体または不導体ということを理解している。	20.5	9.3	1.6	10.2							24.4	34.1	29.8	50.0	
	(2)		★			◎		○			★	電子の移動から、2つの物質の帯びていた電気を考察することができる。	7.8	46.5	35.3	6.6						0.5	3.3	35.3	40.0	
	(3)			★			○	◎			電流が空間を流れる現象を放電ということを理解している。	26.7	0.6	9.6	12.6						18.5	32.1	27.3	45.0		
	(4)				★	◎		○			★	陰極線が電極B(+極)の方に曲がったのは、-の電気をもち電子は+極に引きつけられるので、+極側へ曲げられたことを理解し、それを表現することができる。	10.6	17.3	2.4						28.1	41.6	27.9	35.0		
9	(1)			★			○	◎	電磁誘導と発電 電流・電圧と抵抗※	①物理学的領域	電磁誘導(発電の原理)を理解している。	21.3	3.8	8.0							24.2	42.8	21.3	45.0		
	(2)			★			○	◎			電力の定義を理解している。	46.9	18.3	18.4	12.7						0.1	3.5	46.9	50.0		
	(3)	①		★			◎	○			★	オームの法則と電力量の定義を活用して、発熱量を電流と抵抗を用いて表すことができる。	33.3	12.7	37.7	11.2					0.2	4.8	12.7	35.0		

■ 中学校理科 指導改善のポイント

結果の状況を踏まえると、特に次の4つの視点を重視した学習指導が必要である。

◇視点1 科学に関する基本的概念を確実に習得させる学習指導

「8」(1) 絶縁体を回答する問題、「9」(1) 電磁誘導を回答する問題」の正答率が低い。これらの問題では、科学に関する基本的概念を理解して、使用できるかが問われている。

これらに対応するには、科学に関する基本的概念の意味を理解するだけでなく、それらの意味を解釈して説明したり、ものづくりをしたりする学習活動が重要となる。そこで、授業では、「誘導電流」などの科学的な用語を使ってモーターによる発電のしくみをまとめさせたり、コイルと磁石を使ってスピーカーをつくるなどのものづくりを行ったりするなどの学習指導が必要である。

◇視点2 観察、実験の結果を適切に処理させる学習指導

「2」(1) ②ばねの伸びとおもりの重さの関係をグラフで表現する問題、「4」(4) 化学変化を化学反応式に表す問題」の正答率が低い。これらの問題では、グラフや式などを使って、実験結果を適切に処理することができるかが問われている。

これらに対応するには、観察・実験の内容に応じて、結果を適切に処理する技能を習得することが重要である。そこで、授業では、回路にかかる電圧と電流の関係をグラフで整理することの意味や電圧をかけた水溶液中のイオンが動く様子をモデルで表現することの有用性を味わわせる学習指導が重要である。

◇視点3 科学的な概念を使用して、考えたり説明したりする学習指導

「7」(2) 日本の天気の特徴を説明する問題」の正答率が低い。この問題では、科学的な知識や概念に基づいて、自然の事物・現象を説明することができるかが問われている。

これに対応するには、基礎的・基本的な科学的な知識を習得し、それらを使って文章で表現させる学習活動を行うことが重要である。そこで、授業では、「四季の天気」を「気団」や「季節風」などの気象用語と関連付けながら、文章で説明させる場面を設定するなどの学習指導が必要である。その際、教科書の文章表現などを参考にすることで一層の効果が高まる。

◇視点4 実社会・実生活との関連を踏まえた学習指導

「9」(3) 送電線にかける電圧を高くする理由を考察する問題」の正答率が低い。

この問題では、オームの法則を実社会の事物・現象に適用して考察することができるかが問われている。これに対応するには、原理や法則などをそのまま暗記するだけでなく、それらの意味を理解したり、実社会や実生活の中で適用したりして考えさせる学習活動が重要である。そこで、授業では、生活の中で利用している電気器具についての電力や電力量を調べて1ヶ月の電力量を計算したり、身のまわりの化学変化における発熱反応や吸熱反応を化学反応式で表現したりするなどの学習指導が必要である。

5 中学校英語

- 教科全体では、期待正答率 60.0%に対して平均正答率 53.9%であり、6.1 ポイント下回っている。(昨年度は 1.9 ポイント)
- 「知識」に関する問題では、期待正答率を 4.9 ポイント下回り、「活用」に関する問題では、7.2 ポイント下回っている。
- 評価の観点別では、3つの観点全てで期待正答率を下回ったが、特に「外国語表現の能力」で 18.1 ポイント期待正答率を下回っている。
- 解答形式別では、記述式で 14.9 ポイント、論述式で 17.5 ポイント期待正答率を下回っている。選択式は、7.4 ポイント上回った。
- 領域別では、「内容理解」において、期待正答率を 1.5 ポイント上回ったが、それ以外の領域では下回っている。特に、「文法」では、期待正答率を 15.2 ポイント下回った。
- 正答率分布は、20%から80%まで、平坦な分布をしている。

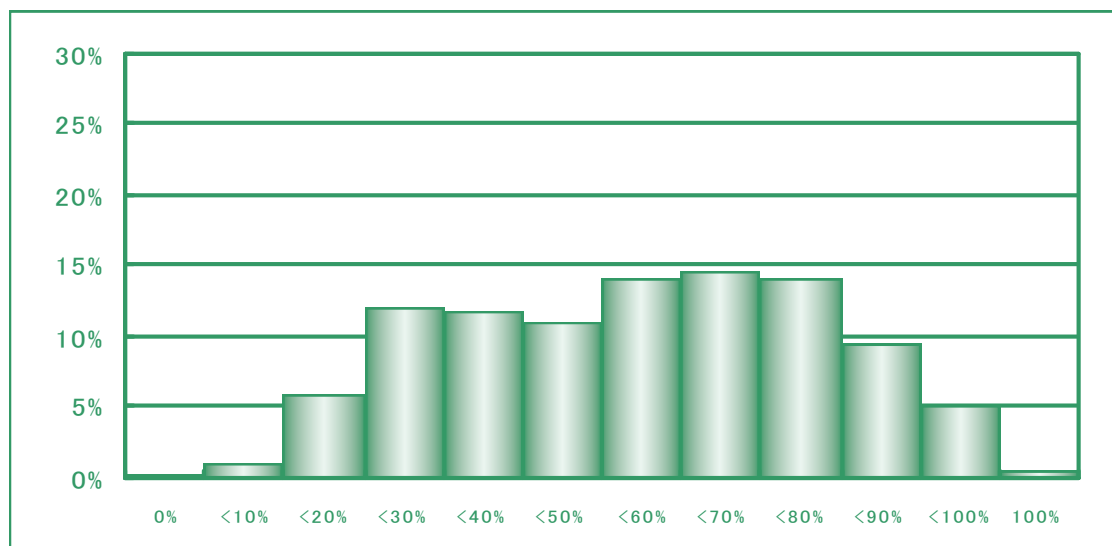
■ 教科全体と「知識」・「活用」問題別、評価の観点別、解答形式別の正答率(%)

名称	問題形式別正答率			評価の観点別正答率			解答形式別正答率		
	全体	知識	活用	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択肢	記述	論述
期待正答率	60.0	66.3	54.4	55.3	62.2	60.3	66.0	60.0	53.6
平均正答率	53.9	61.4	47.2	37.2	57.8	54.7	73.4	45.1	36.1
差	-6.1	-4.9	-7.2	-18.1	-4.4	-5.6	7.4	-14.9	-17.5

■ 領域別の正答率

	領域別正答率				
	リスニング	単語	文法	内容理解	英作文
期待正答率	70.0	50.0	57.8	58.6	51.4
平均正答率	67.9	38.3	42.6	60.1	39.0
差	-2.1	-11.7	-15.2	1.5	-12.4

■ 正答率分布 横軸：正答率 縦軸：生徒の割合 (%)



■ 中学校英語 問題内容と解答類型 (類型番号の白黒反転は正答)

大問 番号	中間 番号	小問 番号	解答形式			観点			活用 問題	問題の内容	領域	出題のねらい	類型番号								正答率	期待 正答率			
			選択	記述	論述	イ	ウ	エ					1	2	3	4	5	6	7	8			その他	無解答	
1	(1)	☆				◎	○		リスニング(対話 イラスト選択)	①リスニング	対話を聞いて、前置詞やcap, catの区別を聞き取り、その内容に合う絵を特定できる。	30.0	0.5	0.3	68.8						0.0	0.4	68.8	80.0	
	(2)	☆				◎	○				対話を聞いて、現在進行形の疑問文とその答えを聞き取り、その内容に合う絵を特定できる。	0.1	98.9	0.4	0.2						0.0	0.4	98.9	80.0	
	(3)	☆				◎	○				対話を聞いて、whatを用いた疑問文とその答え、天気を聞き取り、その内容に合う絵を特定できる。	0.4	0.4	97.1	1.7						0.0	0.4	97.1	70.0	
2	(1)	☆				◎	○		リスニング(対話 文応答完成)	①リスニング	対話を聞いて、対話の流れ(How about you...?の応答)を理解し、適切な応答を選択できる。	15.2	71.6	6.5	6.1						0.0	0.6	71.6	80.0	
	(2)	☆				◎	○				対話を聞いて、対話の流れ(How can I...?の応答)を理解し、適切な応答を選択できる。	3.7	4.6	5.2	85.8					0.0	0.7	85.8	70.0		
	(3)	☆				◎	○				対話を聞いて、対話の流れ(How many...?の応答)を理解し、適切な応答を選択できる。	76.6	8.5	4.3	9.7					0.0	0.8	76.6	70.0		
3	Q1	☆				○	◎	○	☆	リスニング(スピーチ内容把握) ※	①リスニング	紹介文を聞いて、キーワード(年齢)を聞き取り、英語の質問に対する英語の応答文を完成することができる。	65.6	3.1	3.0						16.4	12.0	65.6	70.0	
	Q2	☆				○	◎	○	☆			紹介文を聞いて、キーワード(月)を聞き取り、英語の質問に対する英語の応答文を完成することができる。	21.2	13.7	32.6	0.2	0.1				11.8	20.3	21.2	50.0	
	Q3	☆				○	◎	○	☆			紹介文を聞いて、キーワード(したいこと)を聞き取り、英語の質問に対する英語の応答文を完成することができる。	25.4	16.2	3.6						26.0	28.7	25.4	60.0	
4	(1)		☆			◎	○	☆	長文読解(人形 店での出来事について) ※	④内容理解	長文を読み、その内容についての質問(日本語)に対して日本語で正しく答えることができる。	52.6	15.2	3.9	1.9	0.1	1.1	0.0			10.3	14.9	73.6	60.0	
	(2)	☆				◎	○				長文を読み、その内容についての質問(英語)に対する正答文(英語)を選択できる。(How many...?の応答)	28.4	51.7	9.2	8.6					0.1	1.9	51.7	60.0		
	(3)		☆			○	◎	☆			長文を読み、その内容についての質問(英語)に対する応答文を英語で書くことができる。(whatを使った過去進行形の疑問文の応答)	27.5	0.4	0.1	0.0					31.7	40.3	27.5	50.0		
	(4)	☆				◎	○	☆			長文を読み、その内容に合う文を選択できる。	66.9	9.0	12.2	9.6					0.1	2.2	88.1	50.0		
5	(1)	☆				◎	○		対話文選択※	③文法 ④内容理解	先週末についての対話文を読んで、対話の流れから正しい文(一般動詞の過去形の疑問文)を選択できる。	9.7	73.2	7.2	8.5						0.0	1.4	73.2	60.0	
	(2)	☆				◎	○				電話での対話文を読んで、対話の流れから正しい応答文を選択できる。	72.5	6.4	11.2	8.4					0.1	1.4	72.5	80.0		
	(3)	☆				◎	○	☆			勧誘の対話文を読んで、対話の流れから正しい文(時間をたずねる未来形の疑問文)を選択できる。	15.8	26.5	43.2	11.8					0.1	2.6	43.2	50.0		
	(4)	☆				◎	○				友だちの持ちものについての対話文を読んで、正しい文(whenを使った疑問文)を選択できる。	9.0	14.2	8.8	66.4					0.1	1.6	66.4	60.0		
6	(1)	☆				◎	○	☆	短文読解(メール文、 グラフの読み取り、対話 文理解)※	④内容理解	メールを読んで、その概要を表す日本語を選択できる。	2.8	3.9	16.2	75.6						0.0	1.4	75.6	70.0	
	(2)	☆				◎	○	☆			アンケート内容(英文)とアンケート結果(グラフ)を正しく読み取り、正しいコメントを選択できる。	12.3	15.3	64.8	5.3					0.1	2.2	64.8	50.0		
	①	☆				◎	○	☆			対話文を読んで、対話の流れに合った文を選択できる。	10.1	15.8	4.8	66.8					0.1	2.3	66.8	60.0		
	②		☆			◎	○	☆			対話文を読んで、下線部のように言った理由を日本語で説明することができる。	25.4	0.6	1.0	0.6					46.4	25.9	25.4	50.0		
	③will	☆				○	◎	○			③文法 ④内容理解	日本語をもとに、対話文の流れにあった天気についての未来形を使った英文を完成することができる。	58.7	11.6							10.4	19.2	58.7	60.0	
③could	☆				○	◎	○	③文法 ④内容理解	日本語をもとに、対話文の流れにあった天気についての未来形を使った英文を完成することができる。	50.7	3.8							23.6	21.8	54.5	60.0				
7	(1)		☆			○	◎	○	語順整理	③文法	対話文の流れを理解し、正しい語順でthat節を構成できる。	21.8	7.9	2.0	7.1	0.2	0.1	0.9			53.2	6.7	22.6	60.0	
	(2)		☆			○	◎	○			対話文の流れを理解し、正しい語順でwhichを使った比較の疑問文を構成できる。	57.5	1.3	0.1	14.9	0.5	0.1	1.0			19.2	5.5	58.5	70.0	
	(3)		☆			○	◎	○			対話文の流れを理解し、正しい語順でthere is構文の疑問文を構成できる。	12.7	4.4	0.0	0.1	0.4	0.0	1.2			73.9	7.3	13.9	50.0	
	(4)		☆			○	◎	○			対話文の流れを理解し、正しい語順で副詞用法の不定詞を使った文を構成できる。	10.6	18.9	11.6	1.0	0.7	0.2	0.8			49.7	6.5	11.4	50.0	
8	(1)		☆			◎	○	☆	趣旨把握英作文 ※	⑤英作文	伝えたい内容を参考に、友だちへのカードの1文を最上級を使って書くことができる。	7.6	2.6	0.1	0.1	2.1	0.6	3.2	13.1			39.2	31.5	25.5	60.0
	(2)		☆			◎	○	☆			伝えたい内容を参考に、友だちへのカードの1文を動名詞などを使って書くことができる。	0.0	0.3	0.0	0.3	1.9	15.8	21.8			34.7	25.3	18.3	50.0	
9	したいこと			☆		◎	○	☆	テーマ英作文 (将来の夢について) ※	⑤英作文	自分の将来の夢がわかるように書いてある。	65.7	2.6								0.5	31.1	65.7	50.0	
	理由			☆		◎	○	☆			その理由がわかるように書いてある。	58.3	10.1								0.4	31.2	58.3	50.0	
	文法			☆		◎	○	☆			③文法 ⑤英作文	文法を正しく使っている。	0.6	0.1	0.1	0.0	36.2	11.9	11.6			8.3	31.1	24.4	50.0
	スペル			☆		◎	○	☆			②単語 ⑤英作文	スペルを正しく書いている。	38.3	30.6									31.1	38.3	50.0
	文字数			☆		◎	○	☆			⑤英作文	25語以上で書いている。	42.7	26.3									31.0	42.7	50.0

■ 中学校英語 指導改善のポイント

結果の状況を踏まえると、特に次の4つの視点を重視した学習指導が必要である。

◇視点1 情報を正確に聞き取るための指導

リスニングに関しては、英語による人物の紹介文を聞いて、キーワードを聞き取り、英語の質問に対する応答文を完成する問題の正答率が低い状況であった。

これらの問題では、複数の英文を聞きとり、具体的な人物、時や場所、事実などについて情報を正しく理解し、聞き取った情報から正しい応答の仕方を判断し、正しく英単語を書く力が求められる。

そこで指導の際は、疑問文の疑問詞に着目させ、応答文の中のキーワードを正しく判断できるように疑問文と応答文を照らし合わせながら生徒が確認できるようにし、その上で英語を聞かせて、答えることができるよう繰り返し指導する。その上で、月名や曜日名などの基本的な単語については正確に書くことができるように関連して指導することが大切である。

◇視点2 長文を読んで、その内容に関する英語の質問に対して英語で答えるための指導

「読むこと」の領域に関しては、英文を読みその内容に関する英語の質問に対して英語で答える問題について正答率が低かった。[4]の(3)は、What was the man doing when Lisa and Emi went to the Japanese doll shop? という英語の質問に対する答を書くという問題である。正答例としては、He was cleaning the floor. であるが、質問の文から応答文は過去進行形で答えることに気づかせる必要がある。また、質問文の中にある the man が本文中の誰を指すのか、when 以下の文章がどのような働きをしているのかを理解させながら、応答する英文を正しく書けるように指導することが大切である。

◇視点3 対話文の流れを理解し、正しい語順で文を構成するための指導

AとBからなる対話文から、英文中の一部の語順を正しく並べかえる問題について正答率が低かった。that 節を使った文構造や there are (is) 構文を用いた疑問文、不定詞の副詞的用法などに関する理解が不十分であると考えられる。[7]の問題では、対話文のうち質問文と応答文を照らし合わせながら対話の流れを読む必要がある。また、疑問詞が使われている質問の文に対しては、その疑問詞がどのような情報を求めているのか、応答文の中にその情報は含まれているのかを確認しながら指導する必要がある。指導する際は、yes/no 疑問文、or を含む選択疑問文、wh-疑問文を含めた質問文を取り上げ、平叙文とは異なる語順になることや応答の仕方の違いを示しながらポイントとなる情報を含めた英文が正しく表現できるように、繰り返し指導する必要がある。

◇視点4 伝えたい内容を正しく英語で書いて伝えるための指導

伝えたい内容として、あらかじめ日本語で示されたものを、英語を書いてカードを完成させる問題について正答率が低かった。[8]の問題は、「私は映画を見るのが大好きです」という内容に対して、動名詞を用いて I really like watching movies. と答える問題であった。「大好きです」という部分については、同様の意味となるように、I really like の代わりに I love を使ったり、really の代わりに文末に very much を置いたりするなどして、生徒が英文を書いて表現できるように指導することが大切である。また、動名詞の代わりに、to 不定詞(名詞的用法)なども使えることも留意し、同様の意味でも、別な用法を使って表現できることにも気付かせながら指導することも重要である。

